

平成16年度総合型地域スポーツクラブ育成推進事業 先進総合型地域スポーツクラブ実態調査ヒアリングシート

【基礎データ】					
フリガナ	サクラスポーツクラブ				
クラブ名	さくらスポーツクラブ http://mic.e-osaka.ne.jp/ns-net/sakura/				
活動地域	大阪	都・道 府・県	高槻	(市) 区 町・村	寿栄 地区
市区町村の人口	355,996 名	クラブ設立年	平成14 年	クラブ会員数	702 名
当該地域の小学校の数と児童数	5 校		2,396 名		
当該地域の中学校の数と生徒数	2 校		1,016 名		
主な活動スポーツ種目	野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、バドミントン				
フリガナ	タイボ マサヒコ		クラブでの役職名	運営委員長	
クラブ代表者名	太甫 正彦				

【1. クラブの歴史】

(1) 創設年	平成14年7月
(2) 創設期における当該地域のスポーツの一般的な状況	<p>地域スポーツは小・中学校の学校開放が中心であったため、地元の少年チームなどは、運動場等を利用する学校の学校開放運営委員会に所属し、割り当てられた日に練習等を行っており、施設の利用は限られていた。</p> <p>また、小学校でのスポーツは盛んであったが、中学校の部活動では部員不足、指導者不足などから満足に活動できない種目もあり、小学校で行っていた種目が中学校ではできないという状況もあった。</p>

【2. クラブの一般的特徴】

(3) 過去3～5年ぐらいの会員数の推移(学校区別)																									
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">・2000年</td> <td style="width: 15%;">区・ 名/</td> <td style="width: 15%;">区・ 名/</td> <td style="width: 15%;">区・ 名/合計</td> <td style="width: 15%;">区・ 名</td> </tr> <tr> <td>・2001年</td> <td>区・ 名/</td> <td>区・ 名/</td> <td>区・ 名/合計</td> <td>区・ 名</td> </tr> <tr> <td>・2002年</td> <td>寿栄小学校 区・ 229名/芝生小学校区・ 134名/丸橋小学校区・ 142名/合計</td> <td>10区・ 505 名</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・2003年</td> <td>寿栄小学校 区・ 273名/芝生小学校区・ 184名/丸橋小学校区・ 186名/合計</td> <td>17区・ 643 名</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・2004年</td> <td>寿栄小学校 区・ 282名/芝生小学校区・ 207名/丸橋小学校区・ 213名/合計</td> <td>20区・ 702 名</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>	・2000年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	・2001年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名	・2002年	寿栄小学校 区・ 229名/芝生小学校区・ 134名/丸橋小学校区・ 142名/合計	10区・ 505 名			・2003年	寿栄小学校 区・ 273名/芝生小学校区・ 184名/丸橋小学校区・ 186名/合計	17区・ 643 名			・2004年	寿栄小学校 区・ 282名/芝生小学校区・ 207名/丸橋小学校区・ 213名/合計	20区・ 702 名		
・2000年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名																					
・2001年	区・ 名/	区・ 名/	区・ 名/合計	区・ 名																					
・2002年	寿栄小学校 区・ 229名/芝生小学校区・ 134名/丸橋小学校区・ 142名/合計	10区・ 505 名																							
・2003年	寿栄小学校 区・ 273名/芝生小学校区・ 184名/丸橋小学校区・ 186名/合計	17区・ 643 名																							
・2004年	寿栄小学校 区・ 282名/芝生小学校区・ 207名/丸橋小学校区・ 213名/合計	20区・ 702 名																							
(4) 活動種目の内容と数																									
<p>スポーツサークル：野球、サッカー、バレーボール、バドミントン、キックベースボール、インディアカ、卓球、空手</p> <p>スポーツスクール：野球、バレーボール、ソフトバレー、ビーチボールバレー、バスケットボール、バドミントン、フットサル、卓球、グラウンドゴルフ、ニュースポーツ</p> <p style="text-align: right;">計 18 種目</p>																									

(5) 活動圏域（校区等の特徴）

寿栄地区は、市内でも人口が多く学校が密集しており、特に少年スポーツ活動に対する関心が高い地域であった。近くに市立総合スポーツセンターがある好条件のもと、従来より野球やサッカーの少年チームの活動などは非常に活発であった。

また、住民の方々はスポーツ以外の地域行事にも積極的に参加されており、地域に根ざした活動が充実している地域である。

(6) 定期的な活動内容

野球、サッカーなどの主に子ども向けの種目から、大人の参加も多い卓球やバドミントンのように幅広い世代を対象にしたスポーツサークルがある。

小・中学生を主に対象としたスポーツスクールでは、近隣の中学校の部活動で指導者不足、部員不足等の理由で満足に活動できないバレーボール、バスケットボールなどを積極的に行っている。

(7) イベント等の不定期的な活動の特徴

実技指導を中心とした講習会やテーピング研修会を行っているが、講習会では、バレーボールでは堺プレーザーズ、サッカーでは元日本代表の永島選手といった一流のプレーヤーを招待することで、質の高い指導を受けられるようにし、子どもだけでなく指導者にとっても良い経験となっている。

また地元自治会と協力して、秋季の地域大運動会を主催するなど、地域に根ざした活動も活発に行っている。

【3. キーパーソンの属性】

(8) キーパーソン(指導者)の人柄(さらりと特徴的なこと)

太甫 正彦(少年サッカー) 温厚であり、リーダーシップに秀でている。特に行政や関係団体との調整など渉外面で活躍しており、運営委員を始め会員からの人望も厚い。

(9) なぜ故に総合クラブをつくらうとしたのか

学校開放としてのスポーツ振興ではチーム同士の連携が希薄で、利用者の減少、指導者不足、技術向上面、など多くの問題を抱えていた。

また、中学校の部活動で指導者不足・部員不足などから、子どもたちが満足に活動できない種目もあり、総合型地域スポーツクラブを設立することで、コーチングスタッフやスポーツ施設を充実させ、地域スポーツの発展に貢献するとともに地域のコミュニティづくりを図るため。

(10) そこには自分自身のスポーツ経験とどのような関連があるのか

自分自身、少年チームの指導者として実際に子どもの指導に関わり、また寿栄小学校の学校開放運営委員長として、長期に渡り学校開放に関わっていくなかで、上記のような学校開放や部活動によるスポーツ活動に限界を感じていた。

地域スポーツの発展が、自分のチームや少年スポーツの発展にも繋がり、それが子供たちの健全育成のためになると考え、総合型地域スポーツクラブの設立に関わった。

【4. クラブの意思決定機関】

(11) 創設メンバーの肩書き

運営委員長：太甫正彦、副委員長：谷高行、会計：阿部博、常任委員：木村宣之、吉田隆幸、門脇吉信、久保利文、伊勢元修、四郎園忠常、出口真弓

(12) いつ、どこで

時間は運営委員が集まりやすい週末の夜間に、クラブハウスで会議を行っている。

(13) どんな人たちによって

体育指導委員、青少年指導員、少年補導員、当該校区のPTAや校長先生、学校開放委員といった人からなる運営委員会によって運営している。

(14) どんな内容を決定しているのか

日常の運営で起きる問題についてや、会費の問題やイベントの開催についてなどを議論している。具体的には、会費の区分の改善、活動種目の追加・変更、講演会やスポーツ大会の開催などである。

(15) 意志決定をスムーズにするための工夫

運営委員会で協議する事項は、予め常任委員で一通り議論して利点や問題点を明確にした後で、運営委員全員による総会で議決を得ている。

【5. クラブの組織体制と財政規模】

(16) 組織体制の特徴と配置スタッフ数

運営委員には、体育指導委員、青少年指導員、少年補導員、PTA、学校開放委員、該当校区の小中学校の校長先生といった方々があり、多様な方面の人達が運営に関わっている。
スタッフ数は、委員長1名、副委員長2名、事務局長1名、事務局次長1名、会計1名、会計監査2名、常任委員17名、運営委員10名、顧問4名、事務職員4名

(17) 組織体制づくりにあたって当該地域において配慮したこと

従来の学校開放運営委員にクラブの運営委員に参加してもらうことで、学校開放の利用団体に総合型地域スポーツクラブにスムーズに馴染んでもらえるように配慮した。クラブハウスで十分話し合いをすることによって、既存のクラブの領域を侵さずうまく関係をとることができた。
また、クラブの活動の中心である、子どもを対象とした活動を活発にするため、校長先生やPTAの方に運営に参加してもらうことで、学校の理解と協力を得られるよう努めた。

(18) 組織体制づくりにあたって工夫したこと（特徴点）

ニュースポーツなど多種目のスポーツ活動を提供できるように体育指導委員に参加してもらったり、当初から子ども中心とした活動を展開することを考えていたため、青少年指導員や少年補導員、校長先生、PTAの方に運営に加わってもらっている。行政が上からの指導ではなく、タイミングよい支援をしてくれた。人づくりによる故郷創生を目指すことで意思統一を図ってきた。

(19) 会費及び財政規模とその支出内容（16年度予算）

ア) 自主財源の獲得状況（会費や寄付金を含む）

- ・会員からの入会金、会費
- ・市からの補助金
- ・各地講演会での講師謝礼
- ・イベント時に出店する模擬店の利益

イ) 財政規模とその主な支出内容

16年度収入予定	入会金・会費	2,145,000円	;	年会費:ファミリー	10,000円
	市補助金他	5,400,000円		夫婦	8,000円
	その他	50,000円		一般	5,000円
	合計	7,595,000円		中学生以下	2,500円
主な支出予定	デモ事業講師謝礼	500,000円			
	コーチングスタッフ謝礼	288,000円			
	事務員賃金	1,263,000円			
	スポーツ備品・消耗品	2,550,000円			
	事務用消耗品	250,000円			
	パンフレット等印刷費	850,000円			
	光熱水費	300,000円			
	その他	1,594,000円			
	合計	7,595,000円		内クラブハウス運営費	約2,000,000円

ウ) 委託事業(行政等)の有無と今後の期待（指定管理者制度導入を見据えて）

現在委託事業は行っていないが、将来的にはNPO法人格を取得し、地方公共団体や公的団体からの委託事業を引き受けて、財政面等でクラブの充実を図っていきたい。

【6. クラブ理念の確立に向けて】

(20) クラブの目的と理念についての考え方

- ・地域の連帯意識の高揚、生活拠点の構築及びコミュニティライフを創造し、人間味豊かな街づくり、人づくりによるふるさと創生に尽くす。
- ・スポーツを通じて子ども達の健やかな人間成長と共に親子のふれあい、世代間の交流により、地域社会の活性化を促進する。
- ・多種、多様な生涯スポーツ活動を通じて、人間性の回復と高齢者の健康維持増進を図り、達成感、生きがいを見いだす。
- ・学校週5日制への移行に伴う学校体育施設の効率的活用を図ると共に、スポーツに親しみ楽しむ場を提供し、青少年の健全育成に寄与する。
- ・クラブハウスを活用し、体力作りの場、くつろぎの場、交流の場を提供する。

(21) 当該地域における当該クラブの位置づけ

学校週5日制の施行に伴う休日の増加、学校体育施設の開放によって、子どもたちの週末の活動の受け皿としてスポーツに親しむ場を提供し、また体育施設の効率的活用を図ることで、青少年の健全育成や地域住民の交流の促進、健康増進の中心的存在となる。

(22) 当該クラブの将来展望（夢のようなもの）

さくらスポーツクラブに行けば「仲間がいる」「楽しみがある」「心地よい汗が流せる」「1人からでも参加できる」というスローガンを実現させ、気軽にスポーツができる場所と機会を提供し、地域の健康づくり、仲間づくりの拠点となるよう活動していきたい。

【7. 活動拠点の運営とその利用状況】

(23) クラブハウス・事務所の有無 有る場合はその概要（住所や所有権など）

クラブハウス「パティオ」 高槻市栄町3-11-2 所有権者：高槻市
床面積＝約105㎡ 事務室、多目的室、シャワー室等を備えている。
クラブハウス内にはエアロバイク、ランニングマシン、トレーニングマシンを設置している。

(24) 練習・活動拠点 当該地域における拠点施設の特徴(立地条件、所有権、運営主体など)

クラブの活動は、主に隣接する寿栄小学校体育館及び運動場を使用して行っている。学校なので場所は会員もよく知っており、寿栄小学校の子どもたちは放課後にすぐ立ち寄れる。
また、学校施設であるのでグラウンド、体育館とも設備は充実しており、特にグラウンドにはナイター照明があるので、夜間の活動も可能である。

(25) 拠点施設の利便性とその矛盾（困っていること等）

学校施設であるので設備は充実しており、教育委員会の許可を得て、無料で使用できる。
逆に学校行事を優先しなければならないので、普段からもそうだが、イベント等を行う場合は学校と調整する必要がある。

(26) 当該地域における公的スポーツ施設（学校を含む）数

- ・小学校5校
- ・中学校2校
- ・市民プール
- ・市立総合スポーツセンター（体育館、陸上競技場、テニスコート、運動広場）

【8. 関係団体との連携と協力体制】

(27) 小学校・中学校との連携（具体的に）
当該地域の小・中学校の校長先生に、顧問として運営に関わってもらい、学校側の意見を聞いている。 特に活動の拠点である寿栄小学校とは、日頃から施設管理の面等さまざまな調整をしている。 また、中学校と協議し、部活動とクラブでの地域の活動を両立させられるよう配慮しているが、認めてもらえない場合もあり、現在の課題である。
(28) 具体的な連携対象団体とその内容（人、金、事業等）
地元自治会と連携して、夏祭りや秋季の運動会を行っている。 高槻市の一大イベントである「高槻シティ国際ハーフマラソン」の実行委員会にも協力している。
(29) 協力体制確立のための工夫と成功要因
日常的な連絡調整をしっかりと行い、人間関係も含めて他団体との関係を良く保つこと。 また、地域のためという共通の意識をもってコミュニケーションをとること。
(30) 協力体制確立のためにやってはいけないこと（想定される失敗するケース）
地元や関係団体との事前の調整をしっかりと行い、独自で物事を進めないことが重要である。 また、行政との関係でも、普段から円滑にコミュニケーションを図れるようにすることも重要である。
(31) 関係団体がクラブに協力・協働する際の具体的メリット
クラブには多数の会員が所属しており、その豊富な人材を活かしてイベントの運営に携わったり、ボランティアで手伝いを行うなど、様々な形で人的支援が行えること。クラブが所有する備品などを利用することができる。人材の交流ができる。

【9. 会員・指導者獲得のための事業の工夫】

(32) 会員獲得&指導者獲得のための工夫と成功例
従来の学校開放の団体を積極的に取り込んだことと、地域密着型のクラブということを一に、地域の子どもに会員になってもらうよう、子どもとその保護者を主としてクラブのPRをしてきた。 また、会員の意見を柔軟に取り入れて種々の活動を行ってきた。例えば、グラウンドゴルフは近くに住んでおられた指導者の方の協力を得て無料で始めたところ、結果的に高齢者層の会員獲得につながった。
(33) 会員獲得&指導者獲得のためにやってはいけないこと（失敗例）
会員間、指導者間、会員と指導者の信頼関係を壊さないようにすることが第一であるとする。そのためには情報を共有する、事前に話し合いの場を設けるなどして、意識にズレがないようにすることが不可欠である。
(34) くじ助成等助成金・補助金によって行った事業・行おうとしている事業の内容
元プロ選手や、トップアスリート、有名講師を招いて、子どもだけでなく指導者のための講習会。地元の少年野球や少年サッカーチームの交流と技術向上を目的とした大会の開催。

(35) 助成金・補助金による事業の成果（予想される成果も含めて）

一流選手の指導を直接受けられることで、子供たちの技術やモチベーションが向上した。
また、指導者にとっても、手探りで指導している面があったが、普段の疑問点を解消できるなど、指導力の向上につながった。
大会の開催では、他チームとの交流を深めることができ、その後練習試合などスムーズにできるようになると同時にクラブのPRもできた。

【10. クラブ創設期・成長期の特徴】

(36) 創設期の組織体制と成長期の組織体制の違い

創設期は、設立時に中心的に活動してきた人が核となって、クラブの活動が軌道にのるよう努めてきたが、成長期は、運営委員や会員の声を積極的に取り入れ、さまざまなニーズに柔軟に対応できるように努めている。

(37) クラブの運営状況が発展してきたその理由

野球、サッカーといった従来から人気のある種目だけでなく、ソフトバレーやインディアカといったニュースポーツまで、多種多様なスポーツを楽しめるようにすると同時に、新しくスポーツスクールの種目にグラウンドゴルフを加えたり、夏休みの昼間に子どもを預かる「サマースクール」を行うなど、積極的に新しいことに取り組んできたこと。
また、専用のクラブハウスがあることで、そこが活動の合間の交流の場となり、会員同士の親睦を深めることができることも大きな理由と思われる。

(38) 成功したと思われる決定的な要因

地域住民のニーズを把握し、それにこたえてきたことが、一番の要因と考える。
多様な種目を揃えて、子どもたちが自分のやりたい種目をできるようにしており、特に近隣中学校の部活動で満足に活動できない種目には力を入れている。また、手軽に参加できるという環境を整えることで、保護者にとっても気軽に安心して子どもにスポーツをさせられることは重要な要素である。
ほかにも、高齢者の健康への関心が高まるなか、グラウンドゴルフを取り入れたことで、幅広い世代の会員を獲得することができた。

(39) 今後、日本体育協会に対してどのような支援を望むか

将来的には自立したクラブ運営を行っていきたいが、まだまだ課題が多く、特に財政面で不安がある。今後は、会員を増やしたり、委託事業を行うなどして、収入を確立させていくつもりであるが、備品の不備等もあり、当面は財政的支援を第一にお願いしたい。
また、自立のための運営方法も模索しているところであり、当クラブのマネージャーは経験も浅く知識もあまり持ち合わせていないことから、マネージャーの講習や運営のノウハウの研修なども開催していただきたい。

(40) 現在、悩んでいること、困っていること

まずクラブの運営面では、やはり財政面での確立が一番の課題である。今年度は市へのトト助成金不採択となり、行政の補助金が今年度で終了するなかで、今後地域や会員のニーズに対応した事業を展開していくときに、困難な面がでてくるのが予想される。これから一層の会費を始めとする収入の確保と効率的な運営を追求していかなければならないと感じている。
また、中学校の部活動と地域のクラブチームの活動での二重登録の問題がある。子どもが部活動だけでは物足りないと思いクラブに参加しても、学校側ではまだ総合型クラブがあまり知られていないこともあるが、クラブとしては子どもにとってよりよい環境を整えるため、今後も引き続き学校との協力関係を築けるよう努めていきたい。